

## 世界有数の医科大学の基盤となる 「医学教育学」を目指して

大阪医科大学医学教育センター講師(准)  
同附属病院 医療技能シミュレーション室 副室長 駒澤 伸泰



この度は、会員の広場への執筆機会をいただき御礼申し上げます。

自己紹介から始めさせていただきます。私は、初期臨床研修終了後、麻酔・集中治療・緩和医療に関する研修を行いつつ、夜間大学院に入学し、シミュレーションを活用し鎮静講習会（鎮静トレーニングコース）の開発を行わせていただきました。

その後、2013年から南敏明教授のご厚意により、大阪医科大学麻酔科学教室・医療技能シミュレーション室に奉職させていただきました。はや6年が経過致しましたが、この間は麻酔科学教室教育主任として、卒前教育から専門教育成までの教育開発に力を費やしました。

2015年にはハワイ大学シミュレーションセンターに留学させていただきました。米国留学中にこれまでのシミュレーション教育の実践から Certificated Healthcare Simulation Educator として、帰国後に日本医学教育学会から「医学教育専門家」として認定いただきました。

また、2016年に本学で開催された第48回日本医学教育学会の準備委員や修士課程設立準備委員などの全学の教育に貢献する機会をいただきました。そして、昨年末から医学教育センターへ異動し、大阪医科大学の卒前卒後教育に貢献する機会をいただいております。

まず、私が専門としているシミュレーション教育法について紹介させていただきます。現在、高度複雑化する現代医学に対して、「深い思考力」の育成が示唆されています。深い思考力のためには、アクティブラーニングという自発

的学修姿勢が何よりも大切です。アクティブラーニングに有効であるシミュレーション教育法は、臨床教育と同じ「経験し、それを熟考し、学びを得る」という経験型学修論理に基づいています（図1）。

シミュレーションを行うための基本的な知識さえあれば、シミュレーション教育法は可能です。しかし、一番大切なプロセスは、臨床教育と同じく「経験したことを深く考え、改善行動につなげる」ためのデブリーフィングというプロセスです。シミュレーション教育法は、その教育原理を理解すれば、蘇生教育や基本手技教育だけでなく、多職種連携や医療安全教育にも応用できます。

2019年1月12、13日に第14回日本医学シミュレーション学会を会長として本学で開催させていただきました。300名以上の教育者に参加いただきました。学会テーマは「つなぐ」に設定しました。これは、「先達の知恵や意気を未来へつなぐ」ためのシミュレーション教育の活用という思いを込めました（図2）。学会のテーマとさせていただきますように、私は医学教育の意義は、アートとサイエンスの伝授であると考えます。以

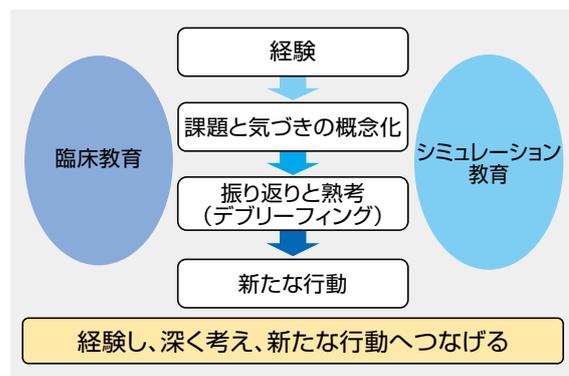


図1：臨床教育とシミュレーション教育に共通の経験型学修理論

下、僭越ながら持説を述べさせていただきます。

中学校や高等学校は「教育」、研究所は「研究」が主目的です。対照的に、医学部の役割は「臨床・研究・教育」の全てであり、どうしても教育が軽視されがちです。しかし、医学部、そしてある程度の大きさの臨床研修指定病院となると「教育」は必ず付随します。これは、我々医師のアートとサイエンスの伝導が、医師と医師間の「伝授」でしか行えないからです。すなわち、私たち医師の臨床や研究は必ず、病院や大学というcommunityを基盤として「多くの先輩方から伝授され、そしてまた伝えていく」という形式で行われるからです。ですので、教育者も学修者も「伝えてもらったものを伝えていこう」という気持ちが重要だと思います。

また、教育とはいわゆる教授を始めとする教員のみが行う体制ではありません。レジデントも屋根瓦的に研修医や医学生を指導できます。

これは学修者だけでなく若手にも教育者意識を涵養していただくために重要です。

さらに、研修医や医学生がいるからこそ、診療科間に協調が生まれると思います。「子どもは地域で育てる」という言葉がある通り、「医学生・研修医は病院全体で育てる」という気持ちがある、他診療科・他部署への敬意と連携を生むと思います。研修医がいてくれることは有り難いことです。もしも、本教室に医学生や研修医が回ってきてくれなければもしかしたら医局の雰囲気は殺伐とするかもしれません。

円滑な教育体制の確立により連携と敬意が生まれるから、研究と臨床もうまくいくと思います。教育により培われた絆は、臨床研究を円滑に行うためにも役立つと思います。総括すると、医学部における「教育」とは「臨床・研究の基盤」と信じています。

寺崎文生教育センター長の指導の下、本学の独自性ある卒前卒後教育に全力を尽くす所存です。ご指導、ご鞭撻程よろしくお願い申し上げます。



図2：第14回日本医学シミュレーション学会  
(大阪医科大学)のフライヤ  
(テーマ「つなぐ」2019年1月12日、13日)

略歴

- 2006年3月 大阪大学医学部医学科卒業
- 4月 大阪大学医学部附属病院卒後臨床研修センター 医員
- 2008年4月 兵庫医科大学病院麻酔科 レジデント
- 2009年4月 兵庫医科大学病院麻酔科病院助手
- 2010年4月 宝塚市立病院麻酔科医員(緩和ケアチーム)
- 2012年4月 兵庫県立がんセンター麻酔科兼緩和ケア内科医長
- 2013年3月 医学博士授与
- 4月 大阪医科大学麻酔科学教室助教  
同附属病院医療技能シミュレーション室 副室長
- 2015年9月 Hawaii University, John A. Burns School of Medicine,  
~ 11月 Telehealth Research Institute, SimTiki Simulation Center, Research Fellow
- 2018年5月 岐阜大学医学教育開発研究センターフェロー
- 2019年1月 大阪医科大学医学教育センター講師(准)